

○設計概要

敷地が当地地に対して2.5m高くされており、1階部分の両からの採光が得られず、また車を設けても隣家より見下ろされてしまいプライバシーが保てない。よって建物をコの字型に配置し各棟を中庭に向けることにより、採光とプライバシーを確保することとする。またより環境の良い2階に居間・食卓・台所を設けバルコニーで中庭を囲み外部を半室外空間として別荘とする。

○構造材の活用部分

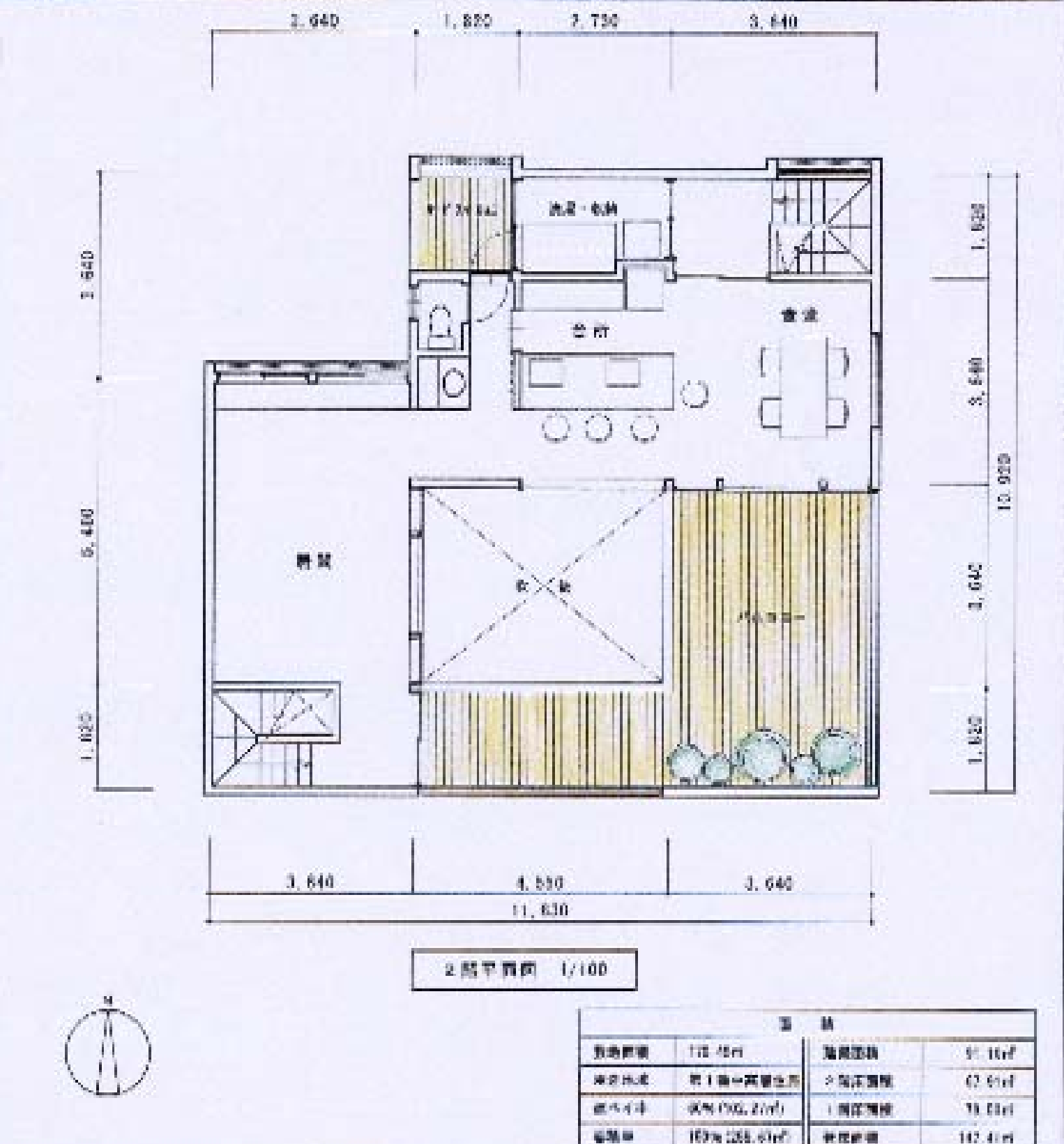
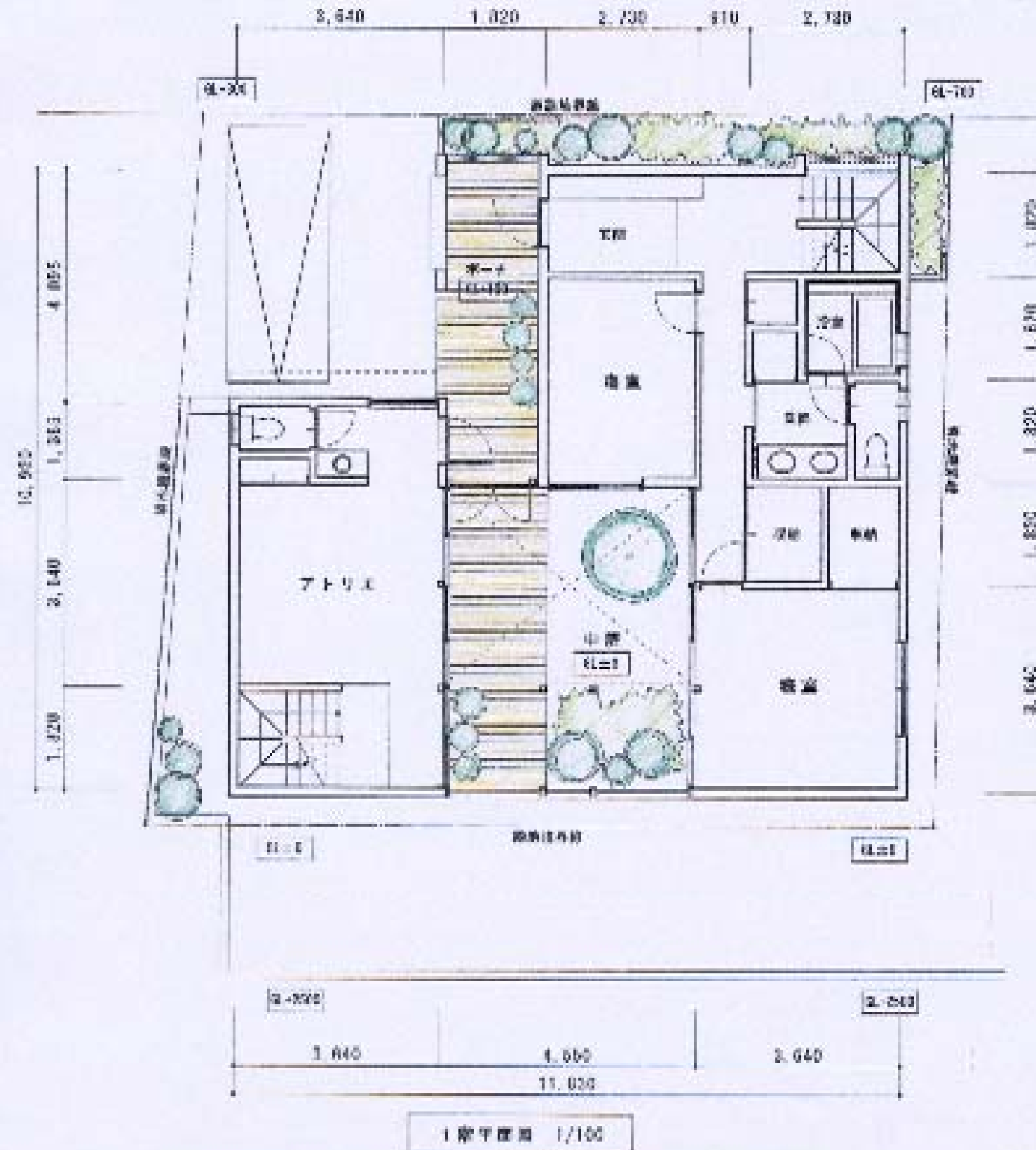
1階部分の玄関ポーチからアトリエの扉まで通って両側面と境界まで、2階は食卓前庭のルーフバルコニーと居間をつなぐ巨匠の柱を軸として室内と連続した半室外空間をつくる。また南北の立面には目隠しのあつちの木製ルーバーを設けプライバシーを保ちつつ通風・採光も確保。室内の構造材・床・天井・壁のみならず外壁空間においても屋根・植栽の両面を考慮し造形材を利活用する。

○構造材を活用する理由

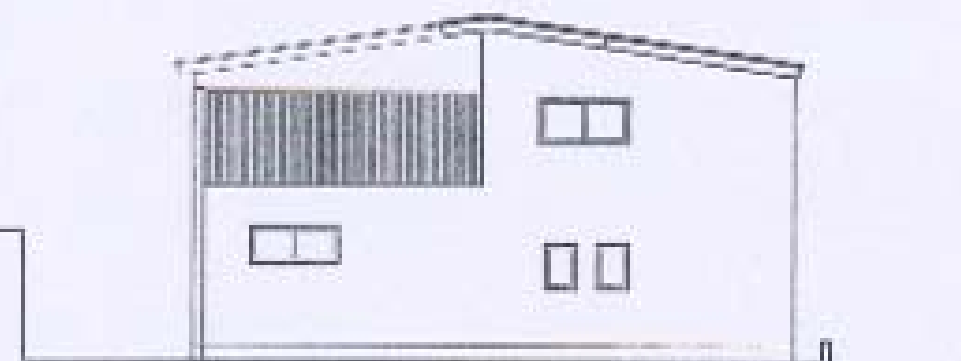
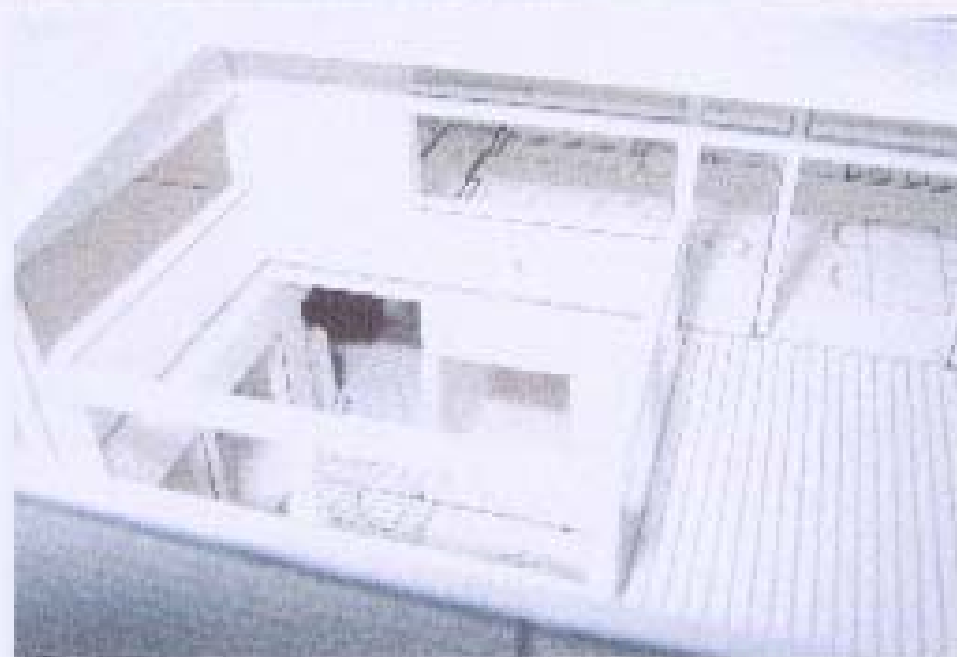
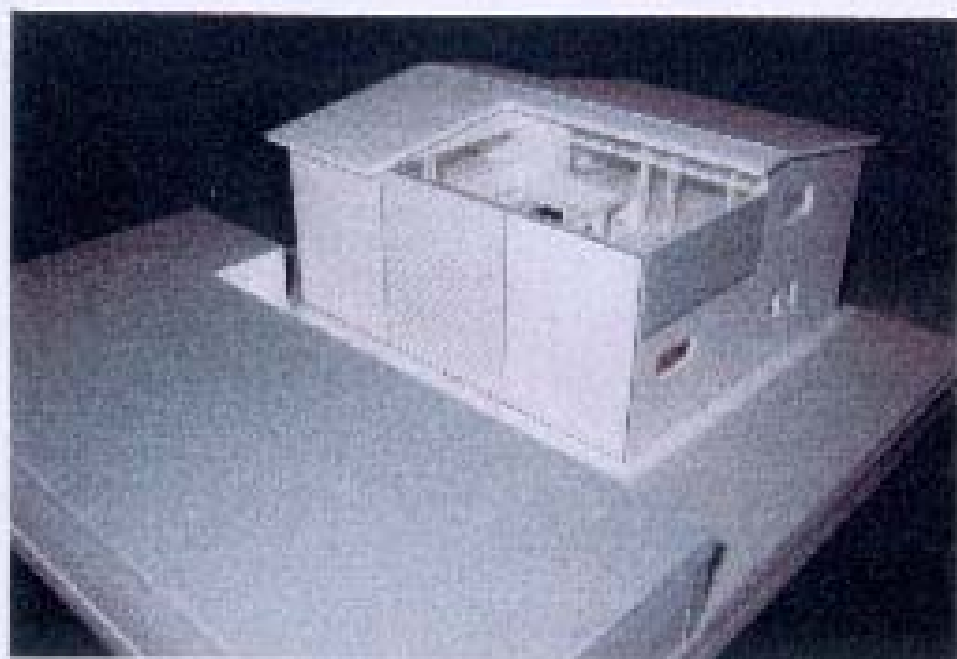
構造材を使うことで人工的なサイクルが閉鎖され、それがそのまま地元の自然をすることにもつながる。トレーサビリティに関しても構造材であれば事前に炭素を測れ自分の目で管理まで確かめることができる。また木材は製造工程における環境負荷が少なく、多くの山の本であれば運搬のエネルギー消費も少なく済む。なによりも「我が家はあつちの山で採れた木でできている」と思えることで家に愛着がわき、幸せな気持ちになれる。

○想定した暮らしと空間構成

夫は会社員、妻は画家で1階アトリエにて創作を行う、子供は一人を想定した。1階のアトリエは外とつながる「公の空間」であり、その2階にはお客や家族の異なる居場所がある。1階は居間・水廻り、その2階に台所・食卓・床等々の「私的空間」が連続する。それらを中庭を介してつなぎ暮らしを円滑できるようにする。空間が連続し「公」と「私」がグラデーションとなって変化する。



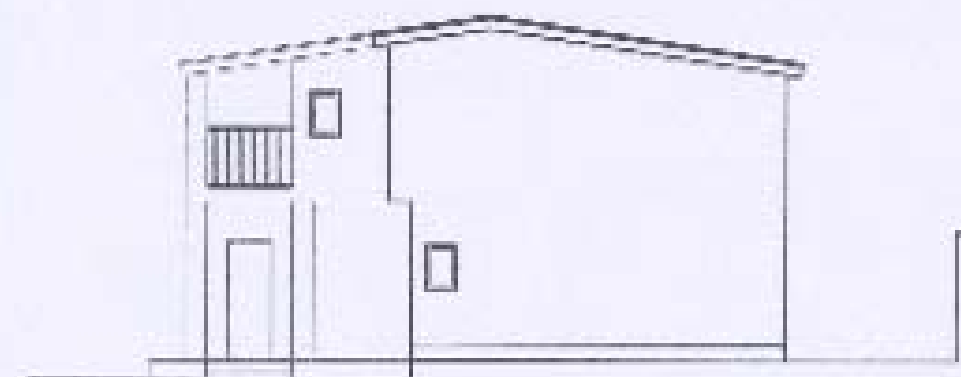
要 領			
敷地面積	112.45㎡	建築面積	91.16㎡
床面積	第1種中高層住居	> 延床面積	67.61㎡
延床面積	67% (76.87㎡)	1階床面積	71.03㎡
容積率	103% (125.67㎡)	容積率	112.41%



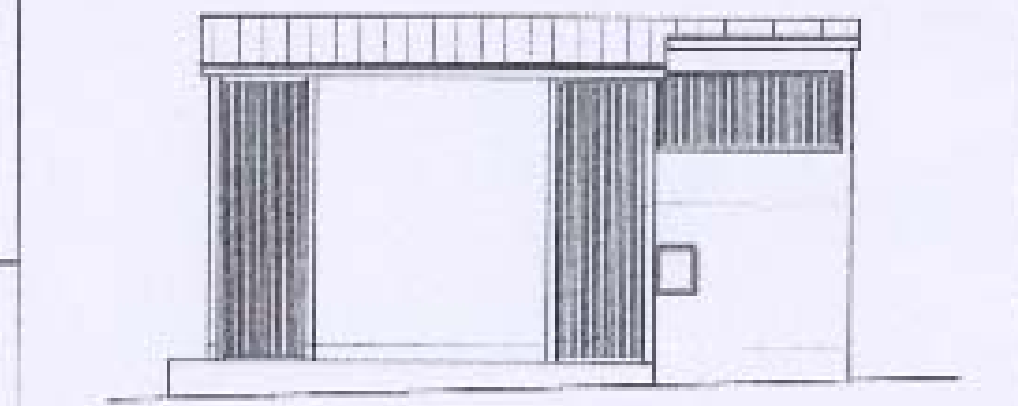
東側立面図 1/150



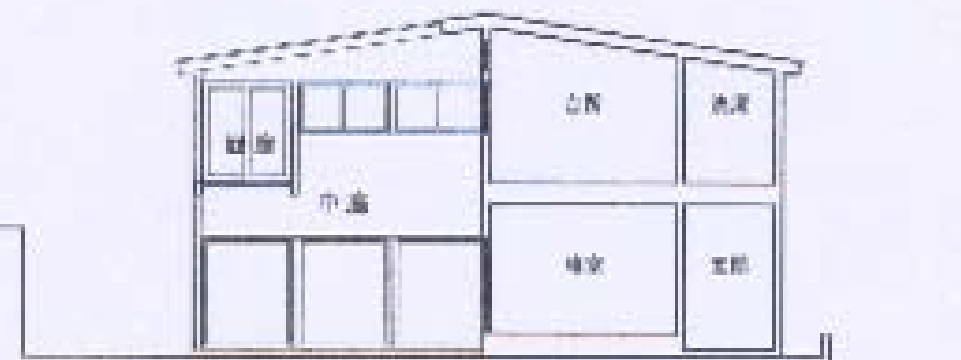
南側立面図 1/150



西側立面図 1/150



北側立面図 1/150



平面図 (1) 1/150



平面図 (2) 1/150